

9月4日(土) ポスターセッション(0号館7階ラウンジ) 掲 示 10:00~17:30
発表者説明 12:30~13:30

大学生における英語正字情報の符号化の傾向と語彙獲得の問題点 Skills and strategy that Japanese college students decode English orthographic information with.

北海道薬科大学 山田 恵

0. はじめに

Krashen(1989)では、テキストに使用されている単語の30%がわからなければ、理解には到達できないことが指摘されている。標準的な英語力検査においても、文法力や読解力と並んで語彙力が主な検査項目となっている。学習者が印刷物から専門情報を正確に取得できるようになることを到達目標とするESPのリーディング指導では、まず英語力の骨格を形成する文法の復習と、リーディングの最も基本的な道具(tool)である語彙の拡大が学習目標となる。一般的な語彙に加えて専門語彙も習得しなければならないESPでは、単語学習は特に重要であるが、学習困難や意欲低下の原因ともなりうる。リーディング指導を効果的に進めるために、学習者の英語正字情報の符号化(音読)のメカニズムと認知的な特徴を、タイプが異なる4種類の単語セットを使った音読実験で調べ、語彙習得に関する困難の様相を探った。

1. 研究の目的

リーディングの習得と単語の正字情報符号化スキルが、英語を母語とする学習者では関連していることを示した Coltheart & Leahy (1992)を参考にし、日本語を母語とする成人学習者の符号化(音読)のスキルと方略を調べ、英語の正字情報符号化エラーにおける日本語スキルの介入の可能性を確かめた。実験に当たって2つの予想を立てた。1)日本語母語話者が使用する下位音節単位が英語母語の学習者のものと一致するなら、単語の音読(符号化)では、基本的に書記素-音素対応を単位として行われるであろう。その場合、音読エラーは、不規則な対応が求められる書記表象への、規則的符号化によって起こるであろう。2)日本語母語話者が使用する下位音節単位が英語母語の学習者のものと異なっているなら、音読エラーの様相に違いが現れるであろう。その場合、音読エラーは、日本語(母語)の符号化の方法に依存したものになるであろう。

2. 研究の方法

2.1 被験者

薬学を専攻する大学1、2年生34名(18~30歳)が被験者となった。このうち1年生28名は、2003年度第56回JACET聴覚テスト-Aを受験した105名の中からランダムに抽出された。聴覚テストの成績は平均点13.524(SD:23.517)であった。

2.2 材料と手続き

単語を構成する文字列と発音の対応が異なる4タイプの単音節の単語(音

節内の母音+子音部分の発音が regular-consistent か、irregular-consistent か、regular-inconsistent か、または irregular-inconsistent) をそれぞれ 20 語用意した。80 単語は一定の間隔でランダムに PC 画面に提示され、被験者は英語の発音で音読した。各被験者について、発音が始まるまでの時間(1/1000 単位)と発音が音声ファイルに記録された。ここまでの材料と手続きは Coltheart & Leahy (1992)を参考にした。全ての音読が終わった後、実験で使用された単語についての知識と、発音を決定するのに使ったと思われる方略について、6つの選択肢から1択する記述式の調査を行なった。

3. 結果と考察

全ての被験者の音声ファイルを発音記号に書き換え、日本人学習者の標準的な発音の特徴を考慮して、音読の正誤を判断した。正答率と反応時間を Coltheart & Leahy (1992)の英語母語の学習者の結果と比較した。音読方略についての回答から、母語の日本語に特徴的なローマ字読みの影響が認められた(表1)。

音読の習得は、正字情報を音声情報に符号化するスキルの内在化の側面を持つ。言語の特徴によって、符号化のプロセスには差がある。言語習得の critical period(臨界期)迄に、学習者の言語認知の基準として形成された母語の特徴によって、学習者に内在化された符号化のスキルは異なる。目標言語での符号化には、内在化された母語のメカニズムが介入する。特に目標言語と母語の正字情報が大きく異なる場合、言語の符号化メカニズムの違いが、目標言語を母語とする学習者との符号化の差として現れる。

母語の介入を克服させるように指導するか、利用して学習者独自の符号化方略が内在化するように指導するか、またそれらの方法がリーディング学習の到達目標とどのように関連してくるかということを今後の課題とする。

(表1) 単語の音読に使われた符号化方略

単語タイプ	単語文字列の符号化に使われた方略					
	単語記憶	類推	文字名	ローマ字	独自	その他
regular	77	13	2	3	2	2
inconsistent regular	69	20	3	4	2	2
inconsistent irregular	79	13	2	3	2	1
irregular	80	13	1	2	2	2

注) 数値は有効回答数に対するパーセンテージで示した。

参考文献

- Coltheart, V., & Leahy, J. (1992). Children's and adults' reading of nonwords: Effects of regularity and consistency. *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition*, 18-4, 718-729.
- Krashen, S. D. & Terrell, T. D. (1989). *The Natural Approach: Language Acquisition in the Classroom*. Hayward: Alemany Press.